



みせん

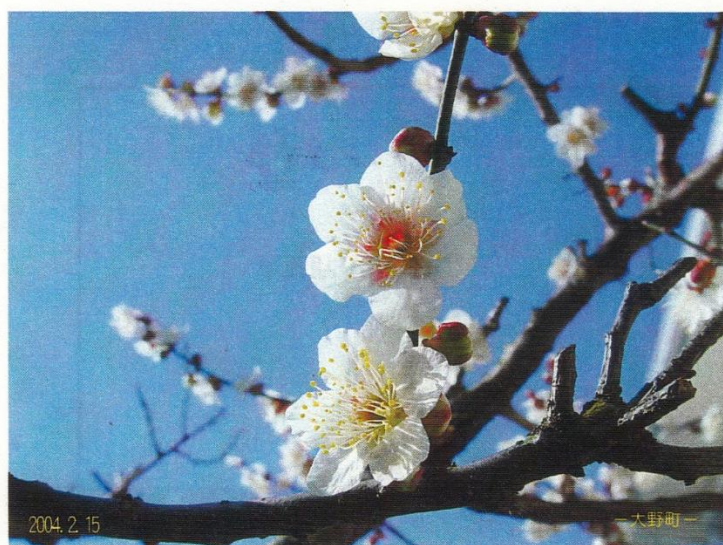
瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第15号

発行日
平成16年 3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|------------------|------------------|
| P2 部会打合せと研修会 | P6 自主観察会（多宝塔コース） |
| P3 公募植物観察会 | P7 投稿 宮島のサルとシカ |
| 自然解説指導者研修に参加 | 編集後記 |
| P4 弥山登山道の補修 | P8 事務局からの連絡事項 |
| P5 岩船岳登山、コバンモチ点検 | PV 行事参加状況、行事予定 |



Spring has come.

サンルームのロッキングチェアに暖かい日差しを浴びながら庭の梅花やメジロを観察している初老の紳士が座っている。

やがて初老はいつの間にか浅い眠りの世界に入り、梅の花が一輪一輪と咲くたびに春の到来を肌が知ることであろう。

また隣の部屋から「お爺ちゃんのやすらぎ・・・いやし・・・」と孫たちの声が微かに耳毛が生えた福耳を通り抜けた。

「写真・文」 中道 勉

PV 部会打合せと研修会

「厳島学講座」を受講

日 時 12月6日 12:30より

場 所 宮島町役場会議室

参加者 足立 池下 池田 小川 島 末原
 高光 竹内 中本 名越 浜本 東丸
 平田 平山 佛崎 古川 前田(正)
 舩田 松尾 村上 森 森川 柳瀬
 矢吹 山根 横山 六重部(27名)
 桧垣自然保護官

録されて7周年になるのを記念して広島県文化財協会の主催で文化庁 本中 眞(主任文化財調査官)さんが「世界遺産と厳島神社」と題して14:00から1時間半講演されました。

厳島神社が世界遺産に登録された意義、世界の遺産登録のながれ、どのようにして遺産を次世代に伝えていくか、今後の方向性など興味深い話を聞くことが出来ました。

1、部会打合せ

当日は12:30に集合、先ず全体会議で桧垣自然保護官及び各役員から伝達事項の報告があり、その後部会毎に分かれて来年度の活動計画について話し合いを行いました。

活動計画案は1～3月の幹事会で調整のうえ4月17日(土)のPVの会、平成16年度総会で決定されます。

2、研修会

今年度広報部会主担の研修会は同じ場所で開催される「厳島学講座」を受講することとなりました。

これは厳島神社が1996年に世界遺産に登

3、有志による懇親会

17:00から宮島口のバーミヤンで懇親会を行い16名が出席しました。



懇親会の出席者



中道会員編集「宮島再発見」

史 跡 探 訪

中道会員は昨年自力で「宮島再発見」史跡探訪を編集しましたが、このほど内容を一新したA5版 56頁の新装冊子を刊行しました。

今回は特に毛利元就の宮島合戦史跡、明治時代構築された砲台跡など軍事施設についても詳細に記述され、宮島特有の植物も写真入りで紹介しており、全編、非常に興味深い内容です。会員の希望者には印刷代実費(300円)で分譲されます。

初冬のもみじ谷

公募観察会に 37 人参加

日 時 11月24日(祝) 9:30 集合

場 所 ロープウェイもみじ谷駅

参加者 一般公募 37 名

PV 足立 池下 岩崎 小方ペア 小川

島 新川 末原 高光 野呂田 前田

(勲) 舛田 松尾 丸平 村上 森

柳瀬 矢吹 横山 六重部 (21 名)

例年ならこの時期もみじ谷の紅葉真っ盛りのはずが今年は天候の加減で不作。しかし一般応募者は 37 名と大人気。急遽グループ編成を 4 班とし、インストラクターもいつもの新川、丸平、六重部さんに小方さんが加わり対応しました。

枕崎台風後 3 年がかりで復旧したもみじ谷自然石溪流公園から弥山本堂、霊火堂まで 2 時間半のユックリズム、参加者からの鋭い質問が飛び交い、行列は滞りがちでした。

モミの葉先は M、カヤはとんがり K、ツガは T の字、識別できましたか。モミはシカが食べますか。アラカシ、アカガシ、ツクバネ、ウラジロ、イロハ、ウリハダ、オオモミジ。

観察会を通じて宮島の自然を次代特に子どもたちへ引き継ぐ伝言への動機付けとしたいものです。

食事のあと、紅葉のメカニズムについて六重部さんの解説があり、小方さんからは押し

葉と団扇を使った見事なクラフト作品が紹介されました。(柳瀬 記)



小方さんのクラフト作品

下見観察会 11月15日(土)

参加者 池下 小方ペア 新川 前田(勲)
平山 舛田 丸平 村上 柳瀬 六重部
(11 名)

自然解説指導者研修に参加して

森川 範吾

12月2～5日の4日間、富士宮市の環境省田貫湖ふれあい自然塾で専科研修(企画担当者コース)に参加しました。

今回の研修では「企画立案」の考え方を柱に実際に企画書を作り、企画の発表を通して課題を分析し改善策を示しあう評価や体験学習法のポイントを学びました。

過去「入門コース」「実践コース」と研修を受けましたが、一貫していたものは生き物や植物の知識向上に関するのではなく①体験から学ぶこと②お互いから学ぶこと③楽しみながら学ぶこと(夜遅くまでとり組み結構きつかった)④答えではなく考え方を!プロセスを大切にすることを学んだと思っています。

環境省がねらいとしているインタープリテーションは従来の観察会の説明とは一味違うように思われます。今後機会があれば実践していきたいと考えています。



ボードを使って説明する丸平さん

弥山登山道の補修

大聖院コース

凍土に作業は難渋

日 時 1月24日(土) 9:00~15:00

場 所 大聖院道5ヶ所

参加者 足立 池下 末原 中道 中本

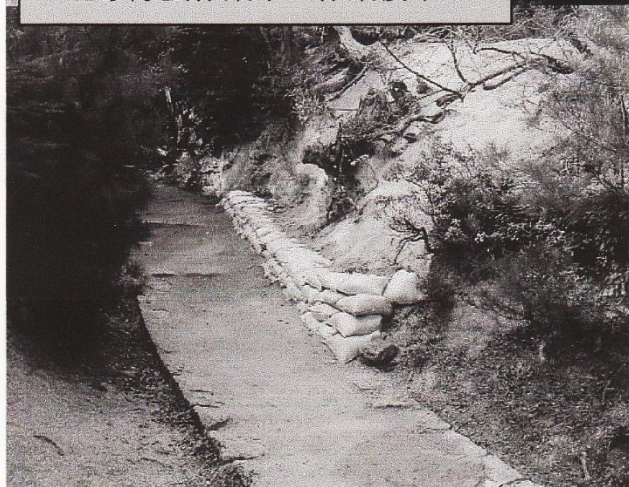
古川 宮崎 森 森川 柳瀬 矢吹

横山 (12名 他に同行者1名)

環境整備部会の行事として弥山登山道の補修、清掃を大聖院コースで実施しました。地震や台風で崩れた時の土砂が登山道に流出し歩行し難くなっているところが随所にあります。今回は事前に末原さんが踏査して決めておいた中腹部の5ヶ所で流出土砂の取り除き、土のう積み、側溝、路面の清掃を行いました。



土砂除去作業↑ 作業後↓

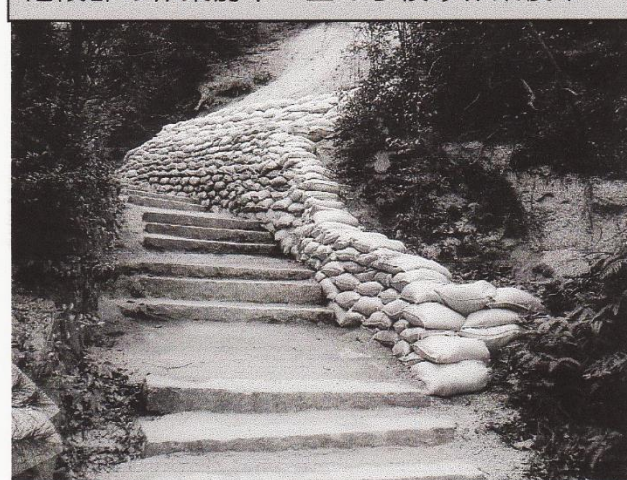


当日は風もなく好天気でしたが、例年になく寒い日が続いたせいか、路面に積もった土砂が凍土となり、石のように硬く、スコップ

が思うように使えないという思わぬ難作業を強いられることになりましたが、参加者全員懸命の努力で無事予定の作業を終えることができました。ご苦労さんでした。



階段部の作業前↑ 土のう積み作業後↓



当日の作業参加者

岩船岳登山 環境整備部会行事

コバンモチ保護網の点検

弥山の南西に位置する岩船岳（466m）は分岐点からでも往復 5 時間かかるところから弥山のように安直に登ることが出来ませんが、昨年大川浦地区で作業したコバンモチ保護網の点検、補修作業を兼ねて環境整備部会行事として 2 月 11 日（祝）21 日（土）の両日に岩船岳登山を行いました。

2 月 11 日（祝）参加者（12 名）

足立 池下 末原 高光 野呂田 花見堂
浜本 本田 丸平 村上 横山 六重部

2 月 21 日（土）参加者（21 名）

岩崎 小方ペア 小川 近藤 島 新川
末原 中道 中本 花見堂 平田 前田
（勲）前田（正）舛田 宮崎 森川 柳瀬
山根 横山 六重部

他に会員の同行者 2 名

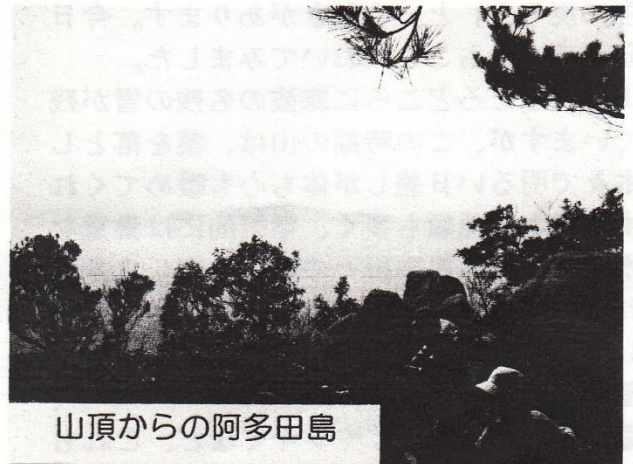
2 月 21 日（土）午前 8 時半、奥の院手前の青海苔浦への分岐点に集まったのは 23 人。いきなりの急登になる、すぐに汗が噴出してきた。稜線に出たらそこから両側に迫るコシダをかき分けながら進んでいく。色の少ないこの季節、タマミズキの赤が鮮やかだ。

途中、道をそれて「陶 晴賢」終焉の地へ、滑るようにして谷を下ると高安原という、わずかに開けたところがあり、そこにひっそりと碑が佇んでいた。幽玄の趣がある。

もとの稜線に戻って、アップダウンを繰り返しながら黙々と進んでいく。10 時半、大川浦への分岐点に到着。さあ、これからいよいよ目的地に向かっての登り、標高差は 230m、胸を突くような傾斜に思わず歩を休め、振り

返ると遠くに駒ヶ林が見えた。途中岩船岳の由来となった岩があったが、確かに船の舳先に見える。

11 時 40 分、ついに頂上に到着。南に向かったの視界が開けている、春本番を思わせる日差しを浴びながら昼食をとった。



山頂からの阿多田島

帰りは大川浦へ下り、そこから海岸沿いに進んで昨年コバンモチの保護作業をした場所へ立ち寄り、山に分け入り手分けして点検。保護ネットには殆ど損傷もなく十分機能しているものと思われる。室浜の広大実験所に到着したのは午後 4 時。けが人もなく無事解散することが出来た。（山根 記）



「岩船岳」由来の岩



コバンモチ保護網

本年度最後の自然観察会



で実施

日 時 2月8日(日) 9:00 詰所集合

場 所 多宝塔〜駒ヶ林〜弥山頂上

参加者 岩崎 小方ペア 小川 島 新川

末原 高光 名越 野呂田 舩田 丸平

村上 森川 矢吹 六重部 (16名)

「本日は観察テーマは決めません」というリーダー村上さんの言葉から始まった駒ヶ林コースの散策。自主研修で各自テーマを見つけて一緒に行動することになりました。

宮島の最近の話題の一つに「宮島のシカを野生に戻そう」という動きがあります。今日の研修テーマもここにおいてみました。

山道のところどころに寒波の名残の雪が残っていますが、この時期の山は、葉を落とした木々で明るい日差しが体も心も暖めてくれます。樹木の種類も多く、学術的には貴重な樹木が見られ、四季折々の観察を楽しませてくれる素晴らしい小世界です。

しかしながら見通しの良い林は、低木や草の種類が少なく、あるのはウラジロやコシダ、有毒といわれるアセビやシキミなど、これも宮島の植生の特徴です。

さて今日はシカの目と心でこの山を見ることにします。

“シカのつぶやき”

私たちシカの今日一日大切なことは、先ず餌にありつくことだが、なんとこの山には食

べ物が少ない！冬場のこの時期、本当につらい。その訳は人口密度ならぬ鹿口密度が異常に高いからだ。天敵が少なく参拝客、観光客の餌で増えた私たちを養うには、あまりにも自然の餌が少ない。

最近空腹に負けて、ついヤブツバキやコバンモチなどの木の皮を食べてみたところ、これが意外といける、コバンモチなんかモチモチしていて美味しかったのに、いつの間にか網をかぶせられてしまった。

島中どこへ行っても空腹は癒されない。こんな状態で、人間どもは私たちを野生に戻す相談をしているようだが、この先何を食べて生きていったらいいのだろう。今となっては人間が餌をくれないのなら、そのうち枯れ残ったマツやヒノキ、リョウブなど手当たり次第に食べないといけなくなりそうだ。

増えすぎた私たちシカと人間とどっちが悪いとは言わないが、きっと人間に嫌われるだろうな・・・

「シカに餌をやらないでください」という看板を見かけます。シカを空腹に追いやって自然淘汰を待つのも自然の一つの姿かも知れませんが、でもそれではシカを野生に戻すのではなく「宮島にシカをいなくする」ことになるように思えてなりません。(高光 記)

◇ お 知 ら せ ◇

次号発行日

6月1日

原稿締切日

4月末日

広報部会からのお願い

会報「みせん」をますます楽しい内容にするために会員の皆さんの積極的な投稿を期待しています。

今号までに署名入り記事または投稿記事を一度でも書いた人は会員43名中20名です。部会ごとの内訳は次の通りです。

観察部会	11名/22名	50%
環境整備部会	5名/16名	31%
広報部会	4名/5名	80%



弥山頂上での参加者

投稿 宮島のサルとシカ

小川 加代

1、サル

二十数年前、私はロープウェイ獅子岩駅の隣にあった日本モンキーセンター宮島研究所を訪ね、サルの餌場に連れて行って貰ったことがあります。

調査のために餌付けしている場所で獅子岩とは少し離れており一般公開されてなく、高く伸びた木々に光が遮られ昼間なのに薄暗く静まりかえった場所でした。研究所の人と一緒に岩の上にじっと座っていると、餌を食べ終えたサルたちは毛づくろいを始め、子ザルが脇を駆け抜けていきます。獅子岩駅では人間を威嚇したり鞆を奪ったりするサルが餌につられて来たとはいえ、目の前でサルだけの世界を見るという忘れられない体験でした。

4年前のPV研修で十数年かかってサルが完全に人間の手から離れたことを知り、山で暮らすサルの群れに合えるかもしれないと思うことが観察会の楽しみの一つになっています。ところが昨年残念な光景を見てしまいました。獅子岩駅でサルの餌付けが行われていたのです、サルの今後が気がかりです。

2、シカ

私は県内の山間部に生まれ、子どもの頃、祖母から聞いた話ですが、戦後、家の近くの旅館にシカを捕獲しに来た人達が宿泊しており、なんでも宮島を奈良のような観光地にするのだと。宮島に同郷のシカの子孫がいるかもしれないと思うとますます親しみを感じています。

やはりPVの研修で金井塚先生に宮島のシカについていろいろ教えていただき、宮島のシカは家畜や愛玩動物ではなくサルと同じように人の手を離れて暮らしていける存在だと分かったのです。



実家の近くの町ではこの頃、畑や家の周囲にシカよけのネットが張り巡らされているのをよく見かけます。稲刈りの終わった田んぼでシカの群れが寝ていたという話も聞きました。人の暮らしが変わるとシカの生活も変わるのでしょうか。このことは宮島で人が変わればシカの暮らしもサルと同じように変わっていくことを示していると思います。

数年前の秋、高田郡の親戚でのこと、夜、庭に出るとガサガサ音がします。築山を見ると立派な角を持ったシカが月明かりの中に浮かび上がり悠々と山の方に消えました。その堂々とした人を圧倒するような姿は眼に焼きついていきます。宮島でもこんな出会いをしてみたいものです。

宮島の自然の中で暮らすサルやシカを植物を観察するのと同じように見てみたい。そのために少しずつ出来ることがあるはずです。

「シカを救うのはわたしたち」という冊子を発行しています。読んだけど内容を忘れた方、まだ読んでおられない方はぜひ読んでください。

◇ 編集後記 ◇

▼野外でボランティア活動をしていると思わぬ体験をするものです。1月の大聖院登山道補修では道が凍土になっており、予想外に作業が難渋しました、寒い日が続いたとはいえ宮島で土が石のように硬くなるとは・・・また2月の岩船岳登山ではコバンモチ点検のため大川浦へ下る途中、直径30cm以上もある巨大なハチの巣が木の枝にぶらさがっているのを発見しました。外へ出て自然に接すると何か新しい体験ができるというのもボランティア活動の楽しみではないのでしょうか▼春4月は年度変わり、PVの会も登録更新時期です、退会する人もいますが、自然保護官事務所では新規会員を若干名、募集しています、どのような人々が仲間に加わるのか、いまから楽しみです。(足立)

◇ 事務局連絡事項 ◇

PV行事参加者一覧

NO	氏 名	①	②	③	④	⑤	⑥
2	足立 清	○	○	○	○		○
3	池下 宏	◎	○	○	○		○
4	池田 靖夫		○	○			
6	岩崎 義一	○				○	○
7	小方 為子	◎				○	○
8	小方 嗣彬	◎				○	○
9	小川 加代	○	○			○	○
13	近藤 芳子						○
14	島 千代喜	○	○			○	○
15	新川 博	◎				○	○
16	末原 義秋	○	○	○	○	○	◎
17	高光 幸三	○	○	○		○	○
18	竹内 栄太郎		○	○			
19	谷口 和昭						
20	田村 博子						
21	中道 勉				○		○
22	中本 章治		○	○	○		○
23	名越 正子		○	○		○	
24	野呂田 恵子	○				○	○
25	花見堂 英延						◎
26	浜本 良子		○	○			○
27	東丸 久		○	○			
28	平田 広三郎		○	○			○
29	平山 美知子	○	○	○			
30	佛崎 勝弘		○	○			
31	古川 義文		○	○	○		
32	本田 隆徳						○
33	前田 勲	◎					○
34	前田 正人		○	○			○
35	舛田 祐子	◎	○	○		○	○
36	松尾 健司	○	○	○			
37	丸平 健二	◎				○	○
38	宮崎 春雄				○		○
39	村上 光春	◎	○	○		○	○
40	森 明彦	○	○	○	○		
41	森川 範吾		○	○	○	○	○
42	森広 香代子						
44	柳瀬 佳史	◎	○	○	○		○
45	矢吹 浚一	○	○	○	○	○	
46	山根 浩二		○	○			○
47	横山 忠司	○	○	○	○		◎
48	吉川 直樹						
49	六重部 篤志	◎	○	○		○	◎
		22	27	25	12	16	33
	松垣自然保護官		○	○			

※ ①⑥の◎印は両日参加者

- ①公募観察会(植物) 11/24(祝)
 同上 下見(○) 11/15(土)
 ②部会打合せ 12/6(土)
 ③研修会「厳島学講座」 12/6(土)
 ④弥山登山道補修 1/24(土)
 ⑤自主観察会 2/8(日)
 ⑥岩船岳登山 2/11(祝) 2/21(土)

◇ 行 事 予 定 ◇

○平成 16 年度総会

4月17日(土) 10:30 開会

宮島町役場2階会議室

午後から宮島町内清掃活動

○植物観察会(公募)

5月9日(日) 9:00 宮島詰所

スカイ歩道コースで実施

5月1日(土) に会員の下見会

○鷹ノ巣高砲台跡整備

5月15日(土) 9:00 宮島詰所

詳細は追って連絡

○海浜植物調査

5月29日(土)(予定)

◇幹事会の開催予定◇

3月13日(土) 10:00~

5月 8日(土) 10:00~

場所 宮島詰所

瀬戸内海国立公園

宮島地区 パークボランティアの会

事務局 環境省自然環境局

広島自然保護官事務所

(〒739-0012)

広島市南区土八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505) 佐伯郡宮島町 1862-18

(宮島桟橋2F)